

第1学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和6年9月27日（金） 第5校時
場所：1年2組教室 指導者 菅野 杏子

授業テーマ	役割演技を通して、親切のよさを考えさせることにより、親切にしようとする心情を育てる授業
-------	---

1 主題名・教材名 しんせつな ところで (B-6 親切 思いやり) 「はしのうえのおおかみ」 (東京書籍)

2 主題設定の理由

親切・思いやりとは、相手の立場を考えたり、気持ちを想像したりして、相手のために優しい言葉をかけたり、助けてあげたりすることである。1年生は発達段階において、まだまだ自己中心的な考えや行動が多い。よりよい人間関係を築いていくためには互いに相手の気持ちを想像し、思いやりの気持ちをもって親切にしていこうとすることが大切である。そして、親切にすることによって、相手が喜び、それが自分の喜びとして受け入れられることで、今後も親切にしていこうとする気持ちを高める。相手の立場や気持ちを考え行動しようとすることは、相手にも伝わり、よりよい人間関係の構築につながっていく。

本学級の児童は、水筒や荷物などを相手に届けたり、当番ではなくても黒板を消したりするなど、「友達や担任を手伝いたい、助けてあげたい」という気持ちをもって行動する姿が見られる。しかし、相手の立場や気持ちを考えて行動するのではなく、「なんとなく」や「みんながやっているから」と、深く考えず流されて行動している児童もいる。そこで、親切にされたときの気持ちやよい行いをしたときに得られる気持ちのよさについて考え、親切な行いがもたらす喜びや温かい心にふれることにより、親切にする大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。

本教材は、主人公のおおかみがうさぎたちを相手におもしろがって意地悪をするが、自分よりも大きくまとも出会い、くまに道をゆずってもらうという話である。意地悪を楽しんでいたおおかみだったが、くまに優しくしてもらうという出来事から、自分の行動を振り返り、相手の気持ちを考えて親切にしていこうとする気持ちを感じ取ることができる。また、最後の場面でおおかみが親切な行動をすることで、いい気持ちになる姿に、親切にした後の心地よさを感じ、親切にしていこうとする気持ちを育むことができる教材である。

指導にあたっては、帰りの会に「キラキラさん」の場を設定し、日常生活で「親切にしたこと」を発表し、意識付けを図っておく。教材を前半と後半に分け、前半では、役割演技を通して、いじわるをしたときとくまにだきあげられたときのおおかみの気持ちの変化を感じさせ、親切にされたときの気持ちを考えさせる。親切にすると自分も相手もいい気持ちなることを考えさせ、親切のよさに気付かせたい。終末では、今までの自分の体験を振り返ることで、互いによさを認め合い、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにしたい。そして、これからはどのような行動をしていくか考えることを通して、親切にしていこうとする道徳的实践意欲を高めたい。

3 指導計画

- (1) 事前指導…帰りの会に「キラキラさん」の場を設定し、日常生活で「親切にしたこと」を発表することで、意識付けを図っておく。
- (2) 本時……教材をもとに、「親切、思いやり」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
- (3) 事後指導…日々の生活において、道徳的实践意欲と態度を育む。「キラキラさん」を継続して取り組む。

4 板書計画



5 主題のねらい

身近な人たちに温かい心をもって親切にすることのよさを感じ、親切にしようとする。

6 授業テーマに迫るための手立て

(1) 登場人物の気持ちの変化を感じ、親切にすることのよさに気付くための役割演技の工夫

(2) 道徳的実践意欲を高めるために道徳的問題を自分事としてとらえ、場面写真や問題提示を通した「振り返り」活動の工夫

7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気 付 く	1. 親切について話し合い、本時の問いをつかむ。 ② やさしくすると、どんないいことがあるのかな。	5	○ 友達に親切にしているときの写真を提示し、どうして優しくするのか考えさせ、本時の問いにつなげる。
見 つ め る	2. 資料「はしのうえのおおかみ」(前半)を読み、おおかみの気持ちの変化を話し合う。 (1) うさぎやきつねを追い返したときのおおかみの気持ちを考える。 ・ たのしい。 ・ おれがいちばんだ。 ・ おれのみちだ。だれもおしたくない。 ・ もっといたずらしたい。 (2) くまに出会ったときのおおかみの気持ちを考える。 ・ おおきい ・ こわい ・ みちをゆずらなくちゃ ・ じぶんもやってたから、とおしてもらえない。 (3) くまの後ろ姿を見送っていたおおかみの気持ちを話し合う。(役割演技) ◎ いつまでもくまをみていたおおかみさんは、どんなきもちだったのかな。 ・ くまさんみたいにやさしくなりたい ・ うさぎさんたちにあやまりたい。 ・ これからはみんなにやさしくしよう。 ・ やさしいな。 ・ うれしいな	25 (20) 全体 個人 全体	○ 教材文の内容を理解しやすくするために、簡単に物語の内容を説明し、おおかみの気持ちを考えるよう促す。 ○ おおかみの挿絵の表情に注目させ、おおかみの気持ちを考えさせる。 ○ 親切にしないときの気持ちを考えさせることで、(3)で親切にしたときのおおかみの気持ちの変化を感じられるようにする。 ○ 登場人物の大きさに着目させることで、おおかみの気持ちを引き出す。 ○ (1)のときのうさぎたちの気持ちにもふれ、相手も同じ気持ちであったことを気付かせることにより、相手の立場になって考えられるようにする。 ○ 板書で場面絵を提示しおおかみの気持ちの変化を分かりやすく可視化する。
伝 え る	◎ いつまでもくまをみていたおおかみさんは、どんなきもちだったのかな。 ・ くまさんみたいにやさしくなりたい ・ うさぎさんたちにあやまりたい。 ・ これからはみんなにやさしくしよう。 ・ やさしいな。 ・ うれしいな 3. 資料「はしのうえのおおかみ」(後半)を読み、親切のよさを考える。 ・ いい気持ちになる。 ・ やさしいっていいな。 ・ じぶんもともだちもうれしい。	(5) 全体	◆ おおかみの気持ちの変化に気づき、温かい心をもって親切にしようとする気持ちについて考えている。(発言・ワークシート) ○ 役割演技でおおかみの気持ちを考えやすくするために、小道具や橋の上を想定した場の設定をする。 ※ (3)で役割演技をし、気持ちの変化を感じることを通して、親切にしたりされたりすることは、相手も自分もいい気持ちになるよさがあることを気付かせる。(手立て1)
振 り 返 る	4. 道徳的問題を提示し、自分だったどう行動するか考え、本時の振り返りをする。 ○道徳的問題 【業間がおわり、教室に戻る途中、転んで泣いている友達がいた。でも、声を掛けたら時間に間に合わないかもしれない。あなただったらどうする。】 ・ やさしくしたいから。 ・ いいきもちにしたい。 ・ やさしいはともだちにもつたわる。 ・ おこられたくないからたすけない。 5. 教師の説話	15 (10) 個人 (5)	○ 児童が親切にしている写真を提示することで、自分たちの身の回りにも親切にしてくれる友達がいることに気付かせる。 ◆ 自分事としてとらえ、身近な人に対して温かい心をもって親切にしようとする気持ちをもっている。(発言・ワークシート) ※ 道徳的問題を提示することで、自分事としてとらえ考えさせ、実践意欲を高める。(手立て2) ○ 親切のよさや親切は自分にも返ってくることを伝えることで、親切にしていこうとする気持ちを高める。

授業テーマ	登場人物の役割演技を通して、それぞれの立場の気持ちを伝え合うことにより、親切にしようという心情を育てる授業
-------	---

1 主題名 あたたかい ころろ （B-6 親切 思いやり）「とくべつなたからもの」（光文書院）

2 主題設定の理由

よりよい人間関係を築いて行くためには、温かい心で相手に接する事が大切である。困っている人を見たときに、とっさに自分にできることはないかと考えて手を指しの述べようとする気持ちが温かい心である。幼い人や友達に温かい心をもって接することによって、相手への親切な行いが生まれると同時に、自分が人のためになったという喜びが生まれる。それがこれからも思いやりのある行動をしようとする意欲を高めるのである。相手の立場に立って考え行動することは、自己中心的な態度を改めたり、他者との人間関係を深めたりすることにもつながり、人間性をより豊かにしていく。

本学級の児童は、勉強が分からず困っている友達には教えてあげたり、休んでいる友達の当番の仕事を手伝ってあげたりと、何かしら助けてあげたい、力になりたいという気持ちを持って接していることが多い。しかし、相手が本当にしてほしいと考えているかという点、自己満足で終わっていることもある。そこで、相手の気持ちを考え、よい行いを行ったときに得られる気持ちのよさや、親切な行いがもたらす喜びや温かい心にもふれさせることが大切である。

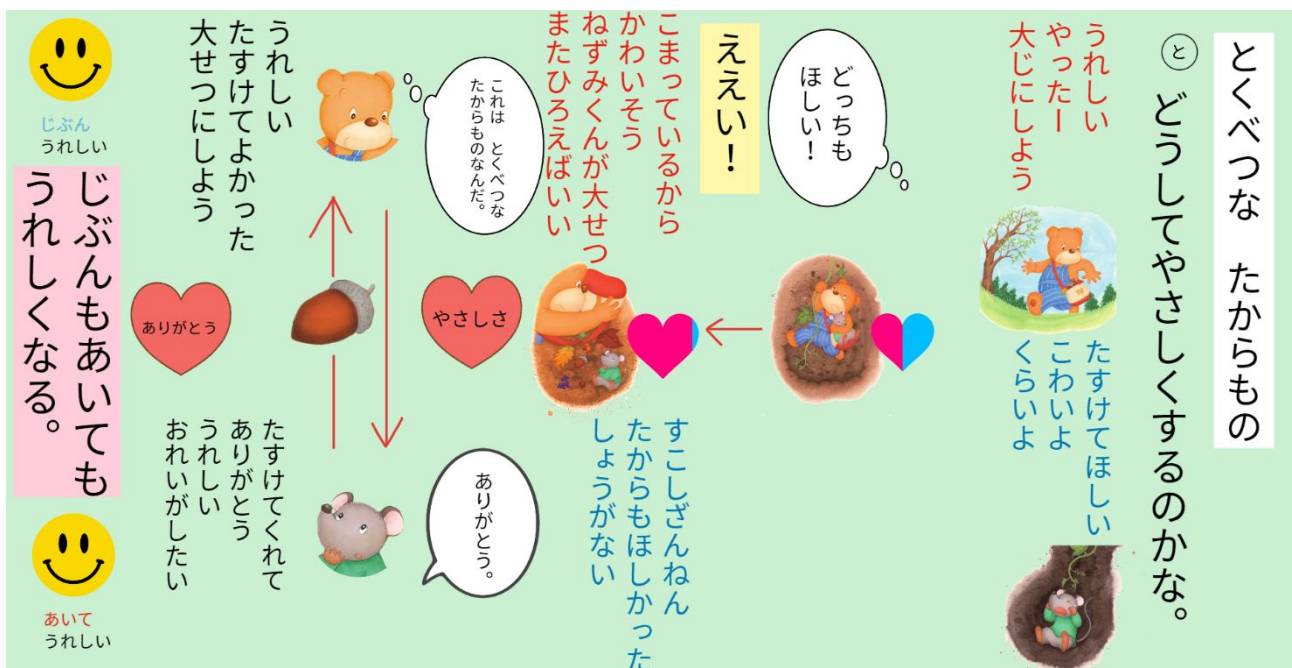
本教材は、かばんの中を宝物でいっぱいにしたくまが、穴に落ちたねずみの子に出会い、自分にできることを一生懸命考え、宝物を捨てねずみくんを助けるという話である。宝物を捨てようかどうかと迷いながらも、困っているねずみの子を助けるくまの気持ちから、相手の気持ちを考えて親切にする大切さを感じ取ることができる。また、かばんに一つだけ残っていたどんぐりを握りしめて「ありがとう」という言葉をねずみに言われ、「これはとくべつなたからもの」と喜ぶくまの姿に、親切でつながる温かい関係、親切にした後の心地よさを感じ取ることができる教材である。

指導にあたっては、帰りの会に「キラキラさん」の場を設定し、日常生活で「親切にしたこと」を発表したり、ロイロノートの共有ノートに「親切にしてもらったこと」を記入したりして、意識付けを図っておく。教材を前半と後半に分け、前半ではねずみの子を助けたいと思いながらも、一生懸命に集めた宝物を捨てたくないという気持ちの葛藤を話し合わせ、親切の意味について考えさせる。後半は、役割演技を通して考えさせることにより、くまの気持ちに共感させる。そして、相手を思っていることは、相手にも伝わり、自分も温かい気持ちになることを実感させたい。終末では、今までの自分の体験を振り返りに書いて発表することにより、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、価値の意識の継続と自己肯定感を高めたい。

3 指導計画

- (1) 事前指導…帰りの会に「キラキラさん」の場を設定し、日常生活で「親切にしたこと」を発表したり、ロイロノートの共有ノート（「キラキラの森」）にありがとうの手紙を書いたりして、意識付けを図っておく。
- (2) 本時……教材をもとに、「親切、思いやり」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
- (3) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。「キラキラさん」と「キラキラの森」に継続して取り組む。

4 板書計画



身近な人に対して温かい心をもって親切にすることのよさが分かり、親切にしようとする。

- (1) 温かい気持ちになることを実感させるための動作化や役割演技の工夫
- (2) 価値の深まりや意欲の継続、自己肯定感を高めるための「振り返り」の場の設定

— 10 —

第3学年1組 道徳科学習指導案

日時：令和6年9月27日（金） 第5校時
場所：3年1組教室 指導者 嶺井 由美

授業テーマ	登場人物の気持ちを話し合ったり、友達から自分のよいところを知らせてもらった りする活動を通して、自分らしさや自分のよさに気づくことができる授業
-------	--

- 1 主題名 自分のよいところに目を向けて（ A-4 個性の伸長 ）「じゃがいもの歌」（東京書籍）
- 2 主題設定の理由

自分の特徴を知るといことは、長所に加えて短所にも気づいていくことであり、特徴を他面的に捉えることである。他者と比較して優劣をつけるのではなく、「一人一人の存在自体がよさ」という前提にたち、「自分のよさ」が自分らしさにつながっていくように指導したい。そのうえで、ほかの人々の多様な個性や生き方に触れさせ、自分の長所をよい方向に伸ばし続けようとする心情を育てたい。

本学級の児童は、友達のためや学級のために行動できる児童が多く、日常的に友達のよさを見つける活動を行っている。帰りの会の「今日のきらきらさん」で友達のよいところを発表したり、「いいところヒマワリ」を掲示し、よいところを見つけたら花びらを貼ったりするなどの取り組みをしている。その一方で、自分のよいところを聞かれるとすぐには言えない児童もいる。そこで、自分の短所や長所も含めた自分らしさについて考え、自分のよさに気づかせていくことが大切である。

本教材は、さとしがじゃがいもには一つ一つ形や大きさが違うことに気づき、クラスの友達の顔を思い浮かべ、いつも先生に注意されてばかりいる友達のよさに気づいていく。じゃがいもを選びながら、友達と自分の個性に目を向け始めたさとしに自分を重ねて、自分のよさを伸ばしていこうとする心情を育てたい。

指導にあたっては、日常的に行っている活動に少し変化をもたせ、友達のよいところ探しを行っておく。いろいろな児童がよいところ探しをする中で、多角的・多面的な特徴が出てくると思われる。本時ではいろいろな角度から見た自分のよいところを知る中で、「自分らしさ」に気づき、自己肯定感を高めたい。

3 指導計画

- (1) 事前指導…「ひみつのパートナー」を行い、意識付けを図っておく。
(児童のよいところ探しを行い、記録しておく。)
- (2) 本時……教材をもとに、「個性の伸長」の道徳的価値の大切さについて考え、主体的に理解する。
- (3) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。学級便りに道徳の授業について紹介し、保護者にも児童のよいところを教えてもらう。

4 板書計画

問 自分らしさってどんなところかな

<ひみつのパートナー>

やさしい
教えてくれる
足が速い
せいいそい
声大きい

字がきれい
じゅんぴがはい



自分のよいところが分かった。
それぞれが自分らしさをもっている。
みんなちがって、みんないい。

とおくくんは、どんな人？



野球がすき
宿題✗
妹にやさしい



やさしい
力持ち



すぐけんか
野球に
むちゅう



クラスの友達

宿題✗
けんか多い

↑
先生

歌いながら、じゃがいもをえらぶさとし

一人一人ちがう。
みんなそれぞれで
おもしろい。
いいところがある
ってすてきな。



自分のよさ 自分らしさ

生き物がすき こま回し名人

小さい子のおせわがすき

クラス写真

サッカーをがんばっている

本が好き じゅんぴがはい

友だちがふえた

5 主題のねらい

自分のよさや自分らしさについて考え、自分の特徴についてとらえようとする。

6 授業テーマに迫るための手立て

(1) 日ごろの取り組みで「友達のよいところ」に気づかせ、そこから「自分らしさ」「自分のよさ」について主体的に考えられるようにする指導の工夫

(2) 価値の深まり、自己肯定感を高めるための「振り返り」活動の工夫

7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気 付 く	1. クラスの友達のよいところについて話し合い、本時の問いを知る。 ◎自分らしさってどんなところかな。	5 一斉	○ 何人かの児童のよさを紹介し、「自分らしさ」や「自分のよさ」について興味・関心をもたせる。 ※ 児童が見つけた友達のよさについて把握し、友達クイズを出し、「自分らしさ」「自分のよさ」について考えるきっかけをつくる。 (手立て1)
見 つ め る	2. 資料「じゃがいもの歌」を読み、さとしの気持ちを話し合う。 (1) とおるのいろいろなことを思い出したとき、さとしはどんなことを考えていたのだろう。 ・とおるは、よく注意されるけど、優しいところもある。 ・いいところもこまったところもりょうほうあるな。 (2) 歌いながら、じゃがいもを選んでいたさとしは、どんなことを考えていたか話し合う。 ◎歌いながらじゃがいもを選んでいたさとしはどんなことを考えていたのかな。 ・一人一人にちがいがあある。 ・みんなそれぞれのよさがあっておもしろい。	25 (15) 一斉	○ 様々な形のじゃがいもの写真を見せ、印象を尋ねる。 ○ とおるのよさについて、多面的・多角的に考え、話し合わせる。 ○ とおるだけではなく、クラスの友達も自分についても様々なよさがあることを確認する。 ○ あきらの長所を見つけたときのさとしの気持ちの変化に気付かせる。 ○ ワークシートでさとしの気持ちを可視化させる。 ◆ 一人一人に個性があることに気づいたり、「自分らしさ」について考えたりしているさとしの気持ちを考えているか。(発言・ワークシート)
伝 え る	3 自分らしさや自分のよさについて話し合う。 (1) 友達が見つけた自分のよさについて知る。 (2) 自分のよさについて気づいたことを話し合う。	(10) 個人 グループ	○ 友達(秘密のパートナー)から見た自分のよさを知り、自分にはいろいろなよい面があることに気づかせる。 ○ 自分が初めて知ったよいところやうれしかった言葉などを発表させる。
振 り 返 る	4 自分の生活を振り返る。 (1) ワークシートに本時の振り返りをする。 (2) 全体で話し合う。	15 個人 一斉	※ 今まではどうだったか、これからはどうしたいのか、気づいたことなどについて振り返らせ、全体に共有する。(手立て2) ◆ 自分を振り返り、自分らしさや自分のよさについて考えているか。 (発言・ワークシート)

第4学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和6年7月1日（月） 第3校時
場所：4年2組教室 指導者 菊地 雅人

授業テーマ	登場人物の気持ちをペアで話し合い、交流する活動を通して、自分らしさに気づき、それを磨くために努力することの素晴らしさを感じることができる授業
-------	--

1 主題名 自分をかがかせるために （ A-4 個性の伸長 ） 「わたしのゆめ」 （光文書院）

2 主題設定の理由

「自分を輝かせる」ために必要なことは、特徴(自分らしさ)を磨き上げ、特長(優れた個性)にしていこうことである。人はだれしも「自分らしさ」をもっていて、子どもも同様である。自分の中にある「自分らしさ」を考え、はっきりと自覚することで他者を認め、寛容な気持ちで接する態度が芽生える。そして、それが自分を輝かせるもとであることに気づくことが、「自分らしさ」を磨いていこうとする意欲を高めていくことにつながるのだ。児童一人一人の良さや個性を自らが感じ、互いに伸ばしていこうと努力することで人間性をより豊かにしていく。

本学級の児童(男子14名、女子14名)は、感受性が豊かで日々の学習や生活での新しい発見や出来事に目を輝かせながら生活している。毎日帰りの会に実施している「今日のMVP」では、友達や素敵なところや頑張った場面などを発表し、自分や周りの良さを感じている。その一方で、周りを見ずに行動してしまいトラブルになることや、一番、一位になることに固執し友だちに迷惑をかけることもあり、学級全体として規則やルール・友だちとのかわり方が定着していない。また、初めからできないと諦める姿もあり、努力することが苦手な児童も見受けられる。道徳に関する聞き取り調査では、「道徳科の授業をどう思うか」という質問に対して約80%が「すき」、「どちらかと言えばすき」と回答し、道徳科の授業を楽しみにしている。本時の授業で取り上げる個性の伸長について、「自分のよいところを知りさらに伸ばそうとしているか」の質問は、学級全員が「している」「どちらかといえばしている」と答えた。

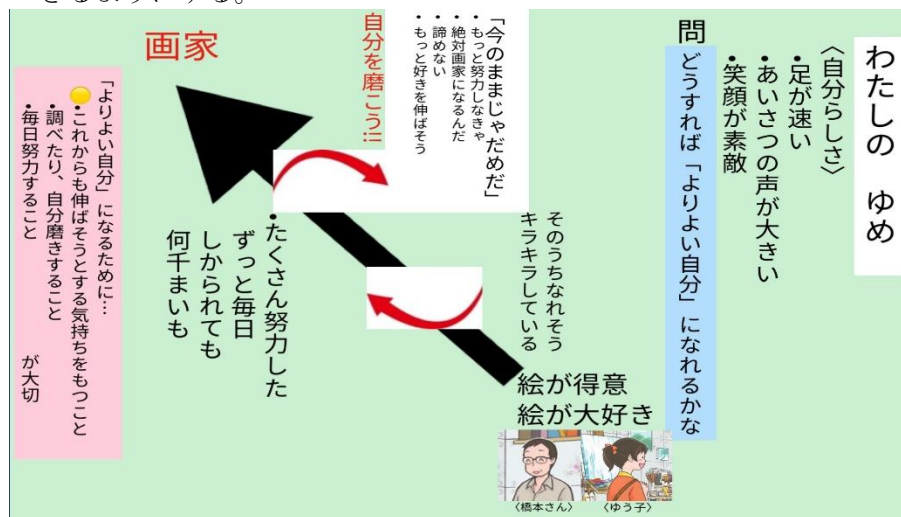
本教材は、新学習指導要領第2内容[A主として自分自身に関すること]4「個性の伸長」(4)「自分の特徴に気付くこと。」を受けて設定したものである。ゆう子は絵が得意であることを自覚しており、周りからの評価も相まって自信をもっている。これがゆう子の「自分らしさ」である。しかし、本物の画家である橋本さんに会い、ただ絵が得意だけでは自分の目指す画家にはなれないのだと気づく。橋本さんは夢を叶えるまでの努力や、「今のままじゃだめだね」と、胸を熱くさせるゆう子の様子について考えさせることにより、「自分らしさ」を磨くことが、自分を輝かせることにつながることを理解させたい。第3学年及び4学年で扱う個性の伸長は、「自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと」特にここでは、得意なことを磨くためには努力や強い意志も大切であることを理解させたい。

指導にあたっては、児童それぞれの自分らしさについて事前に聞き取りを行い、「自分らしさ」に気づかせたい。自分で考えることが難しい児童も少なくないため事前に家族や友達と相談して授業に臨ませたい。ゆう子の気持ちの変化や、橋本さんが夢をかなえることができた要因について考える活動を通して、「自分らしさ」は誰しもがもっているものであり、それを磨くと輝く個性になることを理解させたい。また、努力することの大切さはわかっているものの、橋本さんのように強い意志をもって努力することは難しいことであることについても触れ、どう磨いていくのかを具体的に考えさせ、実践へとつなげていきたい。各自で「自分らしさ」を伸ばしていくための手立てを考えロイロノートのため、言語化し明確にすることで道徳的実践意欲を高めさせたい。最後は教師の説話を通して、誰もが輝く可能性を秘めていることを伝えたい。

3 指導計画

- (1) 事前指導…児童それぞれの「自分らしさ」を明確にするため、導入型反転学習を通して事前に自分らしさについて考える時間を設け、本時の教材や問いについて主体的に取り組むことができるようにする。
- (2) 本時……教材をもとに、「個性の伸長」の道徳的価値の大切さについて考え、主体的に理解する。
- (3) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。目標をもって取り組むことができるようにする。

4 板書計画



5 主題のねらい

自分らしさに気づき、それを磨いて、自分を輝かせて生きていこうとする。

6 授業テーマに迫るための手立て

- (1) 導入型反転学習を通して「自分らしさ」に気づかせ、主体的に取り組める指導の工夫
(2) 今後の目標を設定し、道徳的实践意欲を高めるための「振り返り」活動の工夫

7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気付く	1. それぞれの自分らしさについて話し合い、本時の問いを知る。 <div>㊟ どうすれば「よりよい自分」になれるかな。</div>	5 一斉	○ 自分らしさについて児童に聞き、話の概要を想像させ、興味・関心をもたせる。 ※ 導入型反転で児童の自分らしさをあらかじめ把握することで児童にあった声掛けができるようにしておく。 (手立て1)
見 つ め 伝 え る	2. 資料「わたしのゆめ」を読み、ゆう子や橋本さんの気持ちを話し合う。(前半) (1) どうして橋本さんは夢をかなえることができたのだろう。 ・一生懸命努力したから。 ・諦めなかったから。 (2) ゆう子が「今のままじゃだめだ」と胸が熱くなったのは、なぜか考える。 ・もっと頑張らなきゃ。 ・好きなだけじゃだめなんだ。 ・絶対に夢をかなえたい。 <div>㊟ ゆう子が「今のままじゃだめだ」と胸が熱くなったのは、なぜかな。</div> 3. 「よりよい自分」になるために必要なことについて考え、話し合う。(後半) ・絶対になんかしたいという気持ち。 ・諦めないで頑張ること。 ・好きでいること。 ・いろんな人に聞いて練習する。	25 (20) 一斉 ペア 一斉 (5) 一斉	○ 自分とゆう子さんを照らし合わせ意識しながら聞くように指示する。 ○ 橋本さんは絵を描くことが好きなだけで夢をかなえたわけではないことに気づかせる。 ○ アトリエの様子やゆう子の発言からも努力することは決して輝いていることだけではないことを気づかせる。 ○ 努力することの大切さと難しさの葛藤を児童が感じることができるようにする。 ○ 今の“まま”とは今“よりもっと”という意味であることをつかませる。 ○ 気持ちだけ、努力だけではなく、双方が必要だと気付かせる。 <div>◆ 橋本さんの言動やゆう子の気持ちを考えることで「自分らしさ」を磨いて輝かせようとすることの素晴らしさを感じたか (発言・ロイロノート)</div> ○ 胸が熱くなったゆう子の気持ちを想像し、どうすれば「自分らしさ」を伸ばすことができるのか、自分の考えをもてるようにする。
振 り 返 る	4. 今後の生活で気を付けていきたいことを考える。 (1) 「よりよい自分」になるために、自分がやっていきたいことをまとめる。 ・運動が苦手だと思っていたけど、自分ができる種目を頑張ろうと思った。 ・うるさくして注意されることもあったけど、発表することを頑張ろうと思った。 (2) 教師の説話を聞く。	15 個人 一斉	○ 個性はだれにでもあること、自分を信じて努力すれば不可能なことはないこと、輝く可能性は無限に広がっていることに気付かせる。 ○ 授業をふまえてこれからしていきたいことを発表させる。 ※ 今後の目標を設定し、道徳的实践意欲を高められるような声かけをする。(手立て2) <div>◆ 自身の特徴を知り、「自分らしさ」を高めようとしているか。 (発言・ロイロノート)</div>

すばらしい伝統だと気づいた健太は、どんな気持ちで北山神楽の練習を参加しているのでしょうか。

道德のふりかえり

○授業を終わって思うのは…

○これから自分にできるのは…

第6学年2組 道徳科学習指導案

日時:令和6年9月27日(金) 第5校時

場所:6年2組教室 指導者 木村 幸登

授業テーマ	日本の伝統や文化を多面的・多角的に捉え直すことで、そのよさを知り、大切にしていこうとする心情を育む授業。
-------	--

- 1 主題名・教材名 日本のよさを大切に (C-17 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)
「これが日本」(光文書院)

2 主題設定の理由

我々の生活の中には、その郷土や国に住む人々によって受け継がれてきた習慣や思想、制度、技術などがある。それは、その土地の自然的・社会的・歴史的条件によって独自に育まれた自然観・生命観・審美観・調和観と、先人たちの「よりよく生きたい」と願う心が合わさって生まれた有形・無形の伝統である。具体的には衣食住の様式・言語・文字・行事・文学・絵画・彫刻・芸能・工芸などである。これらの伝統は、その郷土や国に住む人々のアイデンティティを形成してきたものであり、これから生きる人々に受け継がれていかなければならないものである。

本学級の児童は、地域の伝統行事や社会科の歴史学習を通して、昔から伝わってきている文化や郷土、日本についての知識を少しずつ身に付けてきている。昨年度は、地域の伝統文化が受け継がれてきた理由について考えを深めることができた。また、先人の知恵を受け継ぎ、自然と共に生きようとする日本人の精神性については「16 棚田と人をつなぐ」ですでに学習している。しかし、多様な文化の流入や、伝統文化を伝えられる機会の減少から、それらと自分自身の生活とを結びつけて考える体験は多くはない。

自然・食文化・精神・生活習慣などの選択肢の中から、いわゆる伝統文化といわれるものを多面的・多角的に見つめ直すことで、そのよさを再認識できる教材である。それらの中には、失われつつあるものもあり、だからこそ伝統文化の意味や大切さを見つめ直す必要性もある。児童には、単にそれらを守り、受け継ぐことだけが大切なのではなく、自分たちが文化を創造していく担い手であることを自覚させることができる。また、これらの有形・無形の伝統文化に対する畏敬の念や、文化を継承してきた人々の知恵、心に感動することができる教材である。

指導においては、事前に児童に「日本のよさ」を考えさせておく。そして、それぞれが考えてきた「日本のよさ」について授業の中盤でふり返る場面を設定し、国や郷土の伝統文化を児童の生活意識に結びつけていく。さらに、それがなぜ「日本のよさ」で大切にしていきたいのか問い返し、それを選んだ自分の心を見つめることで自我関与させたい。また、教材にある具体的な「文化・自然・心」についてグループで意見を出し合うことで、自分が気付かなかった新たな価値に気付かせ、「日本のよさ」について多面的・多角的に考えさせる。授業の終末では、ALTによる説話で外国の人々から見た様々な日本のよさを紹介し、本時をまとめたい。

3 指導計画

- (1) 事前指導…事前に「あなたが思う日本のよさとは何か」についてアンケートを実施し、本時への関心・意欲を高めさせる。
(2) 本時…教材をもとに、「これが日本」の道徳的価値の大切さについて、多面的・多角的に考え、理解する。
(3) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。

4 板書計画

21 これが日本

㊦ 日本のよさとは何だろうか。



見た目がきれい、彩り
伝統的な作り方



児童の考え

海外にも受け入れられている



先進的な技術



受け継がれてきた伝統



歴史的な建物



おもてなしの心



豊かな自然



日本のよさ

5 主題のねらい

郷土やわが国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。

6 授業テーマに迫るための手立て

(1) 日本のよさについて、多面的・多角的に考えさせるための学習形態の工夫

(2) 自己を見つめ、道徳的価値に対して自我関与を促す振り返り場面の設定と発問の工夫

7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
事前	※ 「あなたが思う日本のよさとは何ですか？」という事前のアンケートに答える。 ・やさしい心 ・自然が多い ・四季がある ・食べ物がおいしい		○ 授業の前にアンケートをとっておき、授業の導入において結果を示すことで、一人一人が考える日本のよさに違いがあることに気付かせ、本時の学習への興味を喚起する。 (学習支援アプリの活用)
気付く	1 アンケートの回答を確認し、本時の問いを捉える。 <div>㊟ 日本のよさとは何だろう。</div>	5 一斉	○ この段階では、アンケートで自分が選んだよさの理由までは問わず、展開でその理由を考えさせるようにする。
見つめる・伝える	2 資料「これが日本」を読み、日本の伝統や文化について話し合う。 (1) 日本のよさに関する写真の中から1枚選び、その理由を考える。 ・アニメ <div>理由：海外にも広がっている、日本を代表する文化だから。</div> ・阿波おどり <div>理由：昔から受け継がれてきた大切なおどりだから。先人が守ってきたものだから。</div> (2) 全体で共有する。	20 (13) グループ (7) 一斉	○ 児童の実態を考慮し、話し合いに使う写真を事前に選んでおくことで、考えの拡散化を防ぎ、話し合いを明瞭にさせる。 ※ グループでの活動により、話し合いながら日本のよさの理由を多面的・多角的に考えられるようにする。(手立て1) ○ 理由が深まらないグループには、その写真に関する情報(写真や映像)を提示し、考えやすくする。 <div>例：阿波踊りは、1587年から続いている。</div> <div>例：日本のアニメは、海外のものと比べて～と評されている。</div> ○ 問い返しや、児童同士での会話や質問などを通して、理由についてより深く考えさせるとともに、自分では気付かなかったよさに気付くことができるようにする。
振り返る	3 日本のよさについて考えを深める。 (1) 最初のアンケートを再確認し、それを選んだ理由について考える。 <div>㊟ どうしてあなたはそれを日本のよさに選んだのですか。</div> ・四季がある <div>理由：四季があることで、日本の豊かな自然がより美しく感じられるから</div> (2) 伝統文化を受け継いでいくために自分にできることを考える。 (3) ゲストティーチャーの話を聞く。	20 (10) 個人 ↓ 一斉 (5) (5)	○ 展開時に学習したことをもとにして考えられるよう、板書の構造を工夫する。 ※ 事前のアンケートを振り返ることで、国や郷土の伝統文化を児童の生活意識に結びつけ、自我関与を促すようする。(手立て2) ○ 「日本のよさ」を、これからどうしていきたいと思ったかを考えさせる。 <div>◆ 日本のよさとその理由について、多面的・多角的に考え、大切にしていこうとしているか。(ワークシート)</div> ○ 外国の人々から見た日本のよさの紹介を聞くことで、さらに多面的・多角的な見方を伝えることができるようにする。

